たちかわの未来の環境を語ろう！
第3回たちかわ環境 市民ワークショップ ニュースレター

発行元　立川市環境資源循環部環境対策課

第3回ワークショップでは、第1・2回ワークショップの結果を踏まえて、“立川市の環境”が 10 年後に目指すべき方向性について、グループの分野ごとに「キャッチフレーズ」を考えながら、将来像を描きました。加えて、描いた将来像の実現に向けて、イチオシの取組案について討論しました。

<開催概要>

1．日時
令和6年4月20日（土）
13時から15時半

2．場所
立川市役所内 会議室

3．参加人数
10人

<プログラム>

1．開会
- 開会挨拶（環境資源循環部長）
- 大学生・高校生ワークショップ結果について

2．講座
（花王グループ カスタマーマーケティング株式会社
森下様・加藤様・林様）

3．グループ討論

4．発表

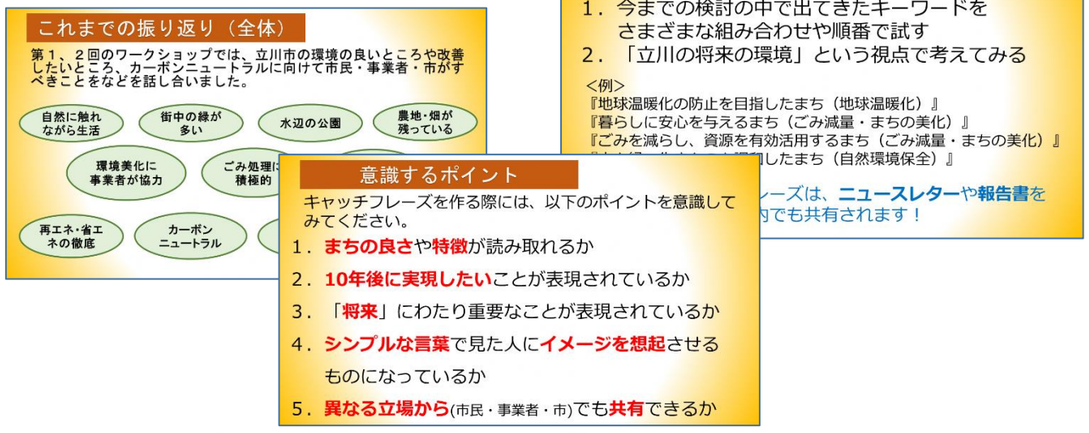
5．閉会

● 講座「事業者の SDGsの取組について」

講師に花王グループ カスタマーマーケティング株式会社様をお招きし、事業者として取り組む「サスティナブルな原料調達」、「生きものとの共生を目指した工場」、「プラスチックの水平リサイクルに向けた取組」などについてご説明いただきました。新技術の開発や創意工夫を凝らした取組を進める事業者と商品を購入し使用する市民が、連携することの重要性の理解を深めました。

● “立川市の環境”が 10 年後に目指すべき方向性とそれに向けたイチオシの取組案

各グループで、前回までの振り返りを行った後に、下記補足資料等を活用しながら、キャッチフレーズや取組案について、討論しました。

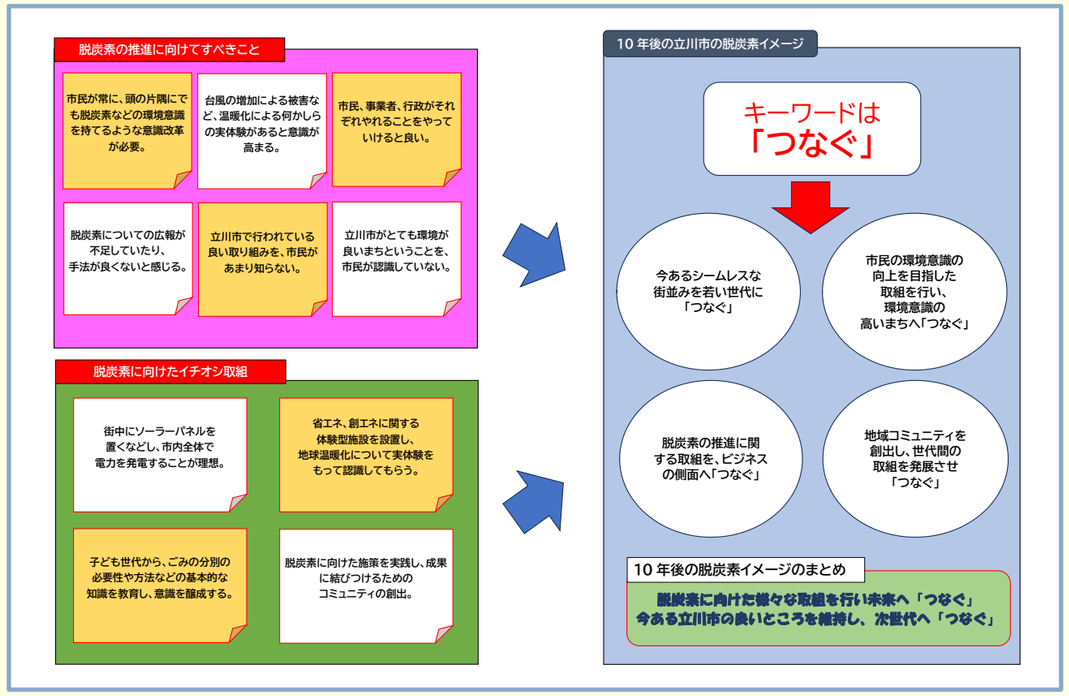


● グループ討論で出た意見 （地球温暖化グループ）

まず、前回の振り返りとして、他グループからの意見を共有しながら意見交換をする中で、そもそもなぜ省エネ等の取り組みが進んでいかないのかについて、議論しました。その中で、「市民が常に環境意識を持てるような意識改革が必要」などの意見が上がり、そのような観点からも、子ども世代から環境教育の機会を提供することで、意識醸成を図ることが重要ではないかといった意見が上がりました。

また 10 年後の立川市の脱炭素イメージを議論するなかで、『つなぐ』というキーワードがあがり、脱炭素に向けた様々な取組を行い未来へ『つなぐ』や、今ある立川市の良いところを維持し、次世代へ『つなぐ』などが 10 年後の立川市の脱炭素イメージとしてまとまりました。

<地球温暖化対策（脱炭素）に向けた立川市の 10 年後のイメージ>



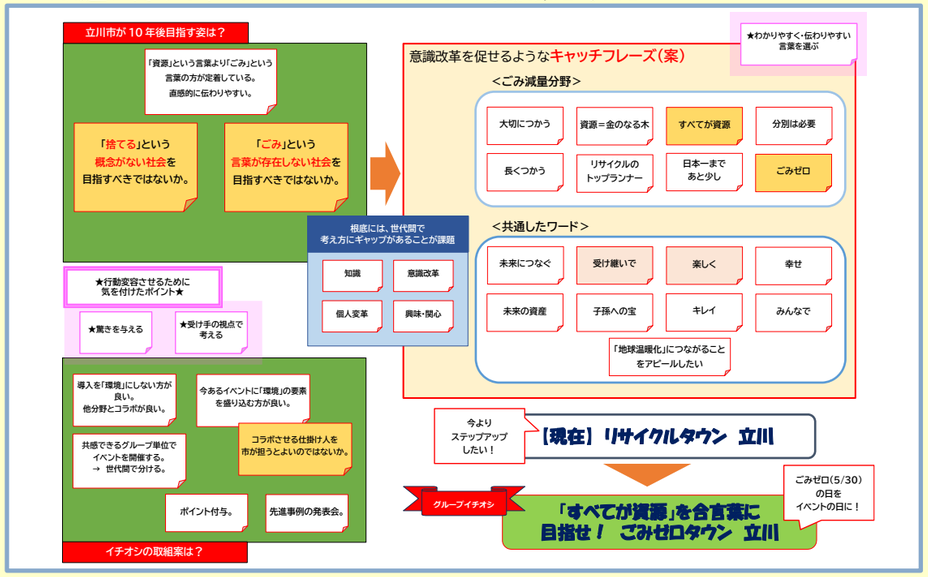
● グループ討論で出た意見 （ごみ減量・まちの美化グループ）

まずは、前回までの振り返りとして、ごみの減量やまちの美化における、10 年後の立川市の環境として目指すべき方向性を再確認しながら、さらに議論を深めていきました。その中で、意識改革や興味・関心を持ってもらうことの必然性と、そこにある世代間ギャップが課題であること等を改めて認識するとともに、そのようなことをキャッチフレーズなどを活用しながら打破し、「ごみ」や「捨てる」という言葉や概念がなくなるような社会を目指す必要があるという考えにまとまりました。

まとまった方向性を踏まえながら、キャッチフレーズにはどんな言葉や思いを込めたいか、様々なワードを出していく中で、「すべてが資源」というメッセージを届けたい、そして既にある「リサイクルタウン 立川」からさらにステップアップしたいという思いを込めて、『「すべてが資源」を合言葉に 目指せ！ごみゼロタウン 立川』という案にまとまりました。

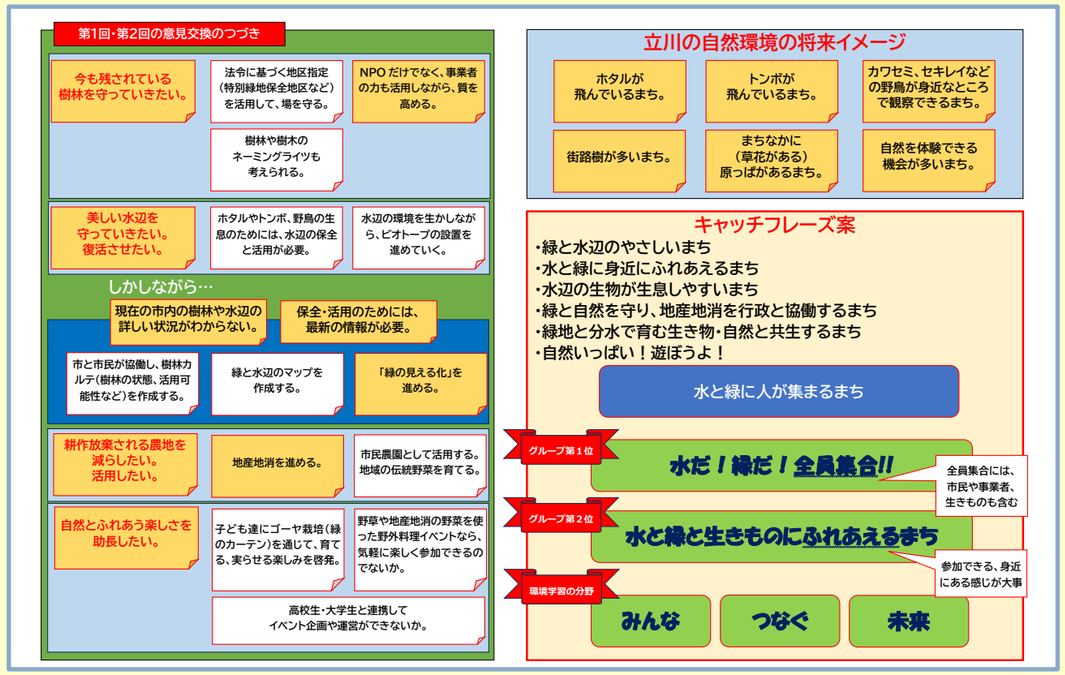
● グループ討論で出た意見 （ごみ減量・まちの美化グループ）のつづき

<ごみ減量に向けてキャッチフレーズとイチオシの取組案を考える>



● グループ討論で出た意見 （テーマ：自然環境保全）

まず、前回の議論の続きから意見交換し、「美しい水辺を守っていきたい。」等の意見がありましたが、現在の市内の樹林や水辺の詳しい状況がわからない等の意見もあがり、緑の見える化として、マップなどを作ったら良いのではないかといったアイデアがでてきました。また、「野草の天ぷら（野外料理イベント）」などのアイデアを高校生・大学生と企画・連携していけばよいのではないかといった意見もありました。また、キャッチフレーズ案については、前回からのキーワードをつなぎ合わせ、イチオシ案として、水や緑に人や生きものなど様々なものが集まり、ふれあえる様子を表した「水だ！緑だ！全員集合！！」にまとまりました。



本日の議論及び、全体を通してのご講評をいただきました。

● 講評 <一橋大学 山下英俊先生>

今日の議論について、正直びっくりしました。配布資料を拝見した感触では、「キャッチフレーズをつくる」ことは、なかなか大変なことのように感じていましたが、資料中の例にある行政でよく見かけるような言葉とは違い、よく考えられた素敵なキーワードが各グループからできていたので、本当に驚きました。地球温暖化グループでは「つなぐ」、ごみ減量・まちの美化グループでは、「すべてが資源」という言葉ができていました。自然環境保全グループに考えていただいた「全員集合！」は、何らかの形で採用することを検討していただきたいと思います。

また、各グループは別々のテーマを討論していたはずですが、必要な要素はそれぞれ繋がっているように感じました。ごみ減量・まちの美化グループでは、「すべてが資源」ということはお金になるという話題が出ていたり、地球温暖化グループでは、「世代をつないでいく」というのはサステナブルの基本だと思いますが、ビジネスにもつなぐという話もありました。自然環境保全グループの「全員集合」という言葉には、いきものも含まれているということでした。私がこのワークショップを通じて学んだことは、環境にやさしいまちというのは、人やいきものにも優しいということ、環境によいまちというのは、地域の経済にとってもよい、そういうまちになることが、みなさんの思い描いた立川の将来像なのではないかということでした。

● 講評 <大妻女子大学 甲野 毅先生>

このワークショップの目的は何なのか、参加者のみなさんは少し疑問に感じながら始めたと思いますが、最終的にはこんなにすばらしいものができあがり、誇らしい気持ちなのではないかと推察します。最後なので、私たちはワークショップで何をしていたのか、整理をしたいと思います。

このワークショップは、環境にやさしい行動、いわゆる「環境配慮行動」について、市民、事業者に促す施策や、立川市の環境が 10 年後に目指す方向性につながるキャッチフレーズ等を考えていただきました。日本では「環境配慮行動」と言いますが、アメリカでは「環境行動」といい、より広義な意味で使われます。この2つの異なる点は、「環境行動」には4つの分類があるということです。

1つ目は「環境管理行動」で、直接自分が動いて環境をマネジメントすることをいい、みなさん既によく取り組まれているような環境配慮行動と一緒です。2つ目は「消費行動」で、本日講座を担当された花王さんが素晴らしい商品を紹介していましたが、環境に配慮した商品を買うことが消費行動であり、この 10 年間はこういった行動変容が起こっています。できてないことは、残りの2つと言われており、その1つが、「説得行動」です。花王さんの講義の中で「輪を広げる」という記載があり、花王さんは研究されているなと感じましたが、こういった「説得行動」、「環境教育活動」がなかなかできない人が多いです。環境を変えるためには、政策（規制）を決める必要があり、花王さんのような技術で世の中を変える必要があり、また一番重要なことは、思想、意識を変えることが必要になります。日頃からの市民活動が重要となるため、これを機に、次の段階である説得活動といった難しい部分にも、ぜひ参加してほしいと思います。ちなみに、4つ目の「政治行動」については、この場で議論するにはなじまないので、またどこかの機会でご紹介ができれば幸いです。

● アンケート結果（一部抜粋） ※ アンケート回答者 10名

Q 事業者の講座はいかがでしたか？

・事業者がリサイクルを考えた製品作りに感動した。
・製造する側の苦労、考えが分かって興味がわきました。
・あちこちの場所で講座をして欲しい。
・普段聞けない内容だったので良かったです。
・楽しく有意な情報が得られた。
・進んで未来のことを考えている企業とわかった。

Q 進行や討議テーマの設定はいかがでしたか？

・未来に向けて立川を良くする内容で良かった。
・とても重要なテーマです。もっと多くの市民に参加して欲しい。

Q そのほか、ご意見・ご感想はありますか？

・時間的に濃い内容でたいへん役に立った。
・自分の行動に良い変化が出ると思います。参加して良かったです。
・時間がもう少しあれば良い。
・また参加したいです。